



ANTI-POVERTY NETWORK

反貧困ネットワーク ニュース 2022年09月号

発行：一般社団法人反貧困ネットワーク

理事長：宇都宮健児

発行日：2022年09月28日

サポートセンター

東京都新宿区西早稲田2-4-7東京DEW

090-7835-4477 / info@hanhinkonnetwork.org



WEBサイト

● 駆け付け・伴走支援の現場

最近の緊急アクションの相談メールには精神的困難を抱えた方からの多様な相談が届きます。居所を失い、現地に駆けつけて数日後に生活保護申請に同行してアパート入居という定型パターンは減少し、代わりに「死にたいほどの生きづらさ」の悩みを聞く機会が増えています。コロナ禍から2年以上が過ぎましたが、依然、多くの方が苦境にあえぎ、心がズタズタに壊されています。家族との関係も壊れ、福祉事務所から機械的に質の悪い無低(無料定額宿泊所)に流される、先週末の電話相談会では、生保窓口で「身体を売れ」と言われたという相談者もいたと聞きます。

仮放免の外国人も同様です。働く事もできず、医療も受けられず、生活保護も利用できない状況が続いています。何故、長期間にわたり「物乞い」状態に置くのでしょうか。私たちを含め、民間の支援団体が、生活のすべてにわたって支援を続けなければいけない状況ですが、これがいつまでも続くわけがありません。公助により政治が解決すべき課題です。

他団体からの依頼・連携も急増しています。

ペットシェルターへの受け入れ要請(行政からの依頼)、福祉事務所がエアコン設置を認めてくれないという町田市の方からの依頼(交渉で設置を確認しました)、アパート転宅を認めずに更生施設に放置されていた女性の相談などです。

「ハウジング・ファースト」の実践は本当に大変だと実感している日々が続いています。アパートに入ればそれで終わるわけではありません。精神疾患を抱えた相談者が、地域でアパート暮らす中でさまざまな困難に直面しています。私たちのシェルターでも難題が日々発生して対応に走っています。

チームで対応する事が必須となります。(事務局長：瀬戸大作)

● 新事務所(サポートセンター)を早稲田に開設しました！

反貧困ネットワークは8月2日にワーカーズコープが管理運営する東京 DEW に新事務所(サポートセンター)を設置しました。

相談専用の部屋があり、さっそく駆け付け支援の相談に活用しています。

ビルの入居者全てが社会的企業や非営利・協同の社会的事業の団体となっています。

すぐ近くに早稲田奉仕園があり、WAM(女たちの戦争と平和資料館)、シャプラニールやJANICなどの国際 NGO もあります。こうした団体との連携事業も行っていきます。



すでに東京 DEW では、フードパントリーが継続して行われていますが、次回から反貧困ネットワークも共催に加わります。

しごとづくり・仲間づくり相談会や定期相談会についても、この場でこれまでよりも頻度を上げて開催していきたいと考えています。

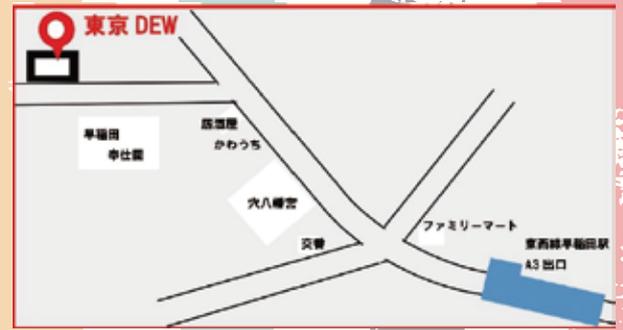
◆反貧困ネットワークサポートセンター

169-0051

東京都新宿区西早稲田 2-4-7 東京 DEW

地下鉄東西線早稲田駅徒歩 9 分

東京さくらトラム(都電荒川線)早稲田駅徒歩 7 分



●貧困ジャーナリズム大賞2022 応募（自薦・他薦）開始しました

貧困ジャーナリズム大賞は、「貧困」に関する報道の分野でめざましい活躍をみせ、世間の理解を促すことに貢献したジャーナリストたちを顕彰します。

日本社会が抱える貧困の問題において、隠されていた真実を白日の下にさらしたスクープ報道、綿密な取材で社会構造の欠陥や政策の不備を訴えた調査報道、地道な努力で問題を訴え続けた継続報道などが対象です。

貧困ジャーナリズム大賞 2022

◆応募

2022. 10. 31(月)必着

◆表彰式(予定)

2023. 1月中旬ごろ



貧困ジャーナリズム大賞 2022 の応募(自薦・他薦)を開始しました。

表彰式は 2023 年 1 月中旬を予定しています。

皆さまが心を打たれた、誰かに広めたいと思う活動、本、映像、掲載など是非お知らせください。(詳しくは反貧困ネットワークのサイトをご覧ください)



WEBサイト

●反貧困ささえあい基金犬猫部 活動報告

朝から生活保護申請同行、駐車場に向かう途中で、ミニチュア・シュナウザーのHちゃんが元気で散歩中、私に飛びついてきて離れません。

キラキラとした大きな瞳がチャームポイント。

人懐っこくて甘えん坊!元気いっぱいの女の子です♪

都内の福祉事務所から緊急依頼。

犬2匹(ボーダーコリーとミニチュア・シュナウザー)の

飼い主さんが病気で倒れて緊急搬送されたが、

部屋には犬2匹が取り残されていると。

部屋に駆けつけて、ドアを開けたところ、2匹とも静かに部屋のなかにいました。

ただエサも水も空になっており、30度を超える室内で、少しでも遅れていたら最悪の事態となるところでした。



飼い主さんはもう飼う事ができず、反貧困ささえあい基金犬猫部で預かることにしました。ボーダーコリーのGくんは現在、里親候補さん宅でトライアル中。事務局長宅にいるミニチュア・シュナウザーのHちゃんも里親候補の方が面会を終えてトライアルが決まりました。里親候補さんはどちらもとても優しく経験豊富なので幸せになってくれると思います。

● 外国人支援の活動報告

○月○日

川を渡って隣県に出かけて駆けつけで相談対応を行う。事前の連絡では在留資格もある様子だしそこそこ働ける見込みもある様子だったので、サテライトオフィスの早稲田に来て貰おうかと思ったが、足を痛めていて働くのも思うに任せないという一言があったのでこちらから向かうことにした。

在留資格があり、健康保険が使える間に身体を何とかしてもう少し働ける様に持って行ければ…という方向性は何とか見えた。在留資格無し、健康保険なしの無い無いづくしのケースを多数見ている自分からすればまだましな様に思える。しかし困っている具合は主観的なものであり、ご本人にとってマシとかマシでないという話は関係ない。

相談の最中に別の相談者から携帯電話に着信。

電話は緊急でシェルターに新しく入った方。生活上の不安があるから何かと注文が多い。注文が多いと捉えるのもまた支援者側の都合か。本人は真剣に困っている訳だから、それはそれとして受け止めた上で現実的な対応策を考えざるを得ない。関係者が多いので話がバラバラにならない様に連携してまとめていく。

出ている間にとある緊急対応が起きていた。現場対応いただいた関係者とスタッフには感謝しか無いが、自分が現場に居ないことで調整役になることでの課題も認識した。刻々と変わる状況は現場に居ないとわからないが、一方で現場に居ることで状況に飲み込まれてしまう部分もある自分は調整役に徹しなくてはならないので難しい。

◇月◇日

東京入管の1階待合室で仮放免延長手続きの外国籍の皆さん3名と落ち合うはずが1名足りない。もともとはそれぞれ別の案件なのだが偶然に出頭の呼び出し日が重なった。

来られた一人は簡単に手続きが済み、一人は午後まで手続きが持ち越し。

来なかったもう一人は体調不良だった。

午後まで手続きがある一人を伴って入管の外に出る。近所の食堂に向おうとしていると入管施設の上層階から何やら叫び声がする。「収容施設の階からの声だ」と同行するSさん。聞けばご自身も入管収容の経験者だった。それからしばらくはお互いに沈黙が続いた。

午後、通訳を交えてのやり取りで多少の時間は覚悟していたが、終わってみれば17時過ぎになった。通訳もご本人もお疲れ様。そこから品川に出て帰り道の途中まで付き合った後に離脱。

19時からは入管問題調査会の例会に参加。久しぶりのリアル開催。本日は元入管職員で成田空港で出入国審査の窓口や審査管理部門にいらした方の話を伺った。

今日は1月以来毎月実施している生活困窮者や仮放免の外国人を抱えている地域への定期食料配送の日だったが、こんな一日だったので開始以来初めてトラックに同行できなかった。現場対応はもっぱら運転手役のNさんにお任せした。(外国人担当:原文次郎の活動日誌から)

● 院内集会・政府交渉 を準備しています

生活困窮者に対する社会保障制度拡充を求める取り組み

10月からの臨時国会に向けて、生活に困窮された方に対する社会保障制度拡充を求める緊急院内集会と省庁交渉を実施したいと考えています。

要求事項としては、

- 物価高への対応として生活保護費の引き上げ
- 居住地を持たない方への公的な住宅支援の拡充
- 劣悪な無料定額宿泊所など貧困ビジネスの実態把握と規制
- 公営住宅の入居要件の緩和・学生の奨学金の返済免除

…等を想定しています。

詳細は決まり次第、反貧困ネットワークのサイトなどでお知らせいたします。



WEBサイト

非正規滞在の外国人の生存権を求める取り組み

仮放免者など非正規滞在の外国人に対する支援については、反貧困ネットワークでもシェルターの確保、医療費、家賃支援、水道光熱費、食料支援などを行ってきましたが、公的支援が全くなく、見通しが立たない状況で、民間での支援に限界がみえています。

同じように民間で支援を行っている団体と共に、こうした実態を明らかにしたうえで、非正規滞在の外国人の生存権を確保するために、住居の確保や生活費の対応、就労可の在留資格を付与するなど公的な措置を求める取り組みを行う予定です。こちらも詳細は決まり次第、反貧困ネットワークのサイトなどでお知らせいたします。

◆寄付のお願い◆実は反貧困ネットワークの財務がピンチです！

反貧困ネットワークの財務が急激に悪化しています

反貧困ネットワークの活動資金はみなさまからの寄付で賄われています。経済は戻りつつあるとされていますが、現場でのSOSは減る気配はなく、丁寧な伴走が必要な事例はむしろ増えています。

駆付け支援の給付金、24室のシェルターの維持管理費、事務所家賃及び光熱費、駆付け支援に生保同行にシェルター管理にと日々走り続けるスタッフの人件費など、月々最低でも400万円はかかります。

一方で、コロナ禍での生活困窮者問題の報道が減ったこともあり、いただく寄付は激減しており、月100万円を切る状況が続いており、今年度に入って赤字が続いています。

みなさまからの継続的な寄付をお願いします

赤字分は昨年度までのストックから切り崩していますが、活動を継続的に行うためにも、心苦しいのですがみなさまからさらなる寄付をお願いいたします。

月500円からの継続寄付もできます。寄付を募るチラシを同封いたしました。ぜひ、まわりの方にも広めていただければと思います。